

詩編 第23編 6節

「まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追ってくるでしょう。私は、いつまでも、主の家に住みましょう。」

主は私の羊飼い、と讃え、歌う1節から始まり6節で終わる歌がここにある。羊飼いである主の導きで牧場に移動し、水のほとりにたどり着く。いのち枯れそうなとき、歩むべき道へと導く。死の危険がたとえ襲いかかろうとも、羊飼いなる主がおられる。危機の直中にいてくださる。

羊飼いの手にあるむちと杖が慰めとなる。羊飼いが共におられる手応えがむちと杖であり、主のちからがふたつに現れる。主がどのようにこのむちと杖を用いられようとも、それが私を支え導く手である。それに、私の敵の前で、羊飼いである主が私のために祝宴を開いてくださる。敵前で勝利の祝いの宴を用意してくださる。主が羊のために開いてくださるのである。

羊飼いの主が導いてくださる人生は計り難く豊かであり、み名を讃美する歌が溢れる。私の人生、杯はあふれます。これまで羊飼いの主に導かれ歩んで来た道のりを思い起こす度、注がれた恵みが押し寄せます。あのときの恵み、このときの恵みが積み重なり溢れます。そして、いままさにこのとき注がれる恵みです。さらに、将来の恵みの歌に備えます。

2023年5月6日